

水稻害虫コブノメイガに対するクロラントラニプロールの防除効果の低下

コブノメイガに対して、育苗箱施用剤で使われるクロラントラニプロールの薬剤感受性と防除効果は低下しており、本田での防除が必要

背景・目的

- ・現場ではコブノメイガの防除にクロラントラニプロールを含む育苗箱施用剤を多く使用
- ・本剤を含む育苗箱施用剤を処理した水田において、コブノメイガの被害が増加しており、感受性の低下が懸念
- ・県内で採集したコブノメイガに対して本剤に対する感受性検定が必要

成果の内容

- ・コブノメイガに対するクロラントラニプロールを含む育苗箱施用剤の普通期水稻での防除効果は、令和4年以降低下
- ・南さつま市で採集したコブノメイガの本剤に対する半数致死濃度(LC₅₀値)は、令和4年が0.3ppm、令和5年が2.78ppmであり、本田試験結果と同様に感受性が低下
- ・令和5年に県内3地点で採集した個体群に対して、いずれの地点でも感受性が低下

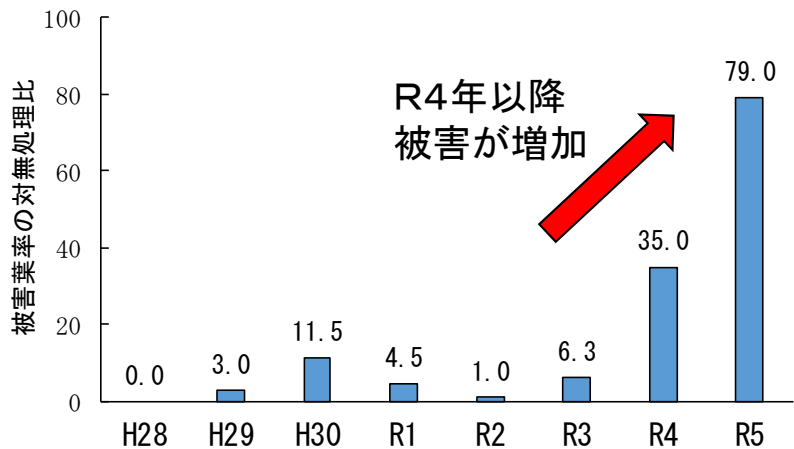


図 南さつま市におけるクロラントラニプロールを含む育苗箱施用剤を使用した普通期水稻でのコブノメイガ被害葉率の対無処理比（飛来第1世代幼虫期）

注1) 被害葉率の対無処理比=処理区の被害葉率/無処理区の被害葉率×100
2) 被害葉率の調査は、いずれの年も飛来第1世代幼虫期に実施

表 コブノメイガ1齢幼虫に対するクロラントラニプロールの半数致死濃度(LC₅₀)と感受性比

採集地点	半数致死濃度 (ppm)		
	令和2年	令和4年	令和5年
南さつま市	0.03 (3.8)	0.3 (37.5)	2.78 (347.5)
阿久根市	—	—	4.18 (522.5)
出水市	—	—	2.07 (258.8)
(参考)	—	—	0.008

沖縄県名護市

注1) 表中の青字()内の数値は感受性比(R/S)を示す
感受性比=採集個体群のLC₅₀値(R)/感受性個体群のLC₅₀値(S)
2) 沖縄県名護市の採集個体群は、感受性個体群として平成29年に採集後、累代飼育した1齢幼虫を使用

期待される効果

クロラントラニプロールを含む育苗箱施用剤を処理した場合



コブノメイガに関する病虫害防除所の発生予察情報に注意



本田での発生状況に応じて効果のある薬剤で防除

○普及対象・範囲
水稻生産者(技術員)